

(要約版)

## ベトナムにおける 17 世紀の喫煙具の考古学的研究

助成研究者 菊池誠一 (昭和女子大学国際文化研究所、考古学)

### 1. 目的

ベトナム中部の港町ホイアン (Hoi An) は、東南アジアのなかでも伝統的な港町の景観をよくのこし、かつ大航海時代以来の東西文化の融合を今に伝えていることで、1999 年にユネスコの世界遺産に登録された。また、このホイアンは、近世日本と深いつながりのある町で、朱印船貿易の時代、多くの日本人が住み、ここに日本町を形成した。

1993 年から、筆者らは日越共同のホイアン町並み保存事業に取り組み、その一環として、筆者は旧市街地の形成を解明するため、数回におよぶ考古学発掘調査を旧市街地で実施した。その発掘調査のなかで、17 世紀の遺構から無釉の陶器製キセルが出土した。

本研究の目的は、この陶器製キセルの生産年代、生産地、そして陶器製キセルをベトナムにおけるタバコ史のなかに位置づけ、その歴史的意義を明らかにすることである。

### 2. 方法

これまでベトナムにおいては、タバコの歴史や喫煙具に関する研究はまったくない。そのため、本研究では、つぎのような調査を実施した。

第一に、ベトナムの博物館において喫煙具の資料調査を実施した。まず、北部では、ハノイにある国立のベトナム歴史博物館、民族学博物館、そしてフンイエ市にあるフンイエ省博物館で実施した。そして、中部ではフエ市にあるトゥアティエン・フエ省博物館、南部ではホーチミン市にある国立の歴史博物館などで実施した。また、現在のベトナムにおけるタバコ文化を考えるため、市場見学もおこなった。

第二に、17 世紀の陶器製キセルの生産地を確認するため、2010 年 8 月に中部トゥアティエン・フエ省に属するフォックティック村において考古学調査を実施した。

第三に、中部のホイアン市でこれまで出土した陶器製キセルの調査・集成を実施した。

こうした調査をへて、とくに、17 世紀のベトナムにおける喫煙具の様相を明らかにし、ホイアン出土陶器製キセルの歴史的意義を位置づけたい。

### 3. 結果

ベトナムの北部から中部、南部の博物館資料調査を実施した。その結果、磁器製容器の水キセルを確認し、また唯一例であったが、ホイアン出土と類似する無釉の陶器製キセルがフエの省博物館で展示されていた。これはフエ・ミースエン地区の窯跡から出土したものである。つぎに、フエ・フォックティック地区の発掘調査を実施した。ここは、ミースエン地区に隣接し、ミースエン地区で出土した無釉の陶器製キセルと同様のキセルの出土も考えられることから、2010年に地区内の2箇所を発掘調査した。出土遺物の年代は、ミースエン窯跡出土遺物やホイアン出土遺物と比較すると、おおむね17世紀から19世紀代と考えられる。そのため、ミースエン地区とほぼ並行して窯業生産をおこなっていたことが判明した。しかし、期待していた無釉の陶器製キセルの出土は確認できなかった。そして、ホイアン出土キセル集成を実施した。これまでホイアンで出土したキセルは、7点を数えたが、1点以外はすべて17世紀のものであった。そして、この6点はフエ・ミースエンで出土した熔着したキセルと胎土・器形・大きさの点でよく似ていることが判明した。以上が調査結果である。

### 4. 考察

港町ホイアンで出土した無釉の陶器製キセルは、東南アジアのなかの喫煙具としてどのように位置づけられるのか。また、ベトナムのタバコ史のなかでどのような位置があたえられるのであろうか。

東南アジアのなかで陶器製キセルを焼いた窯跡が調査されたのは、17世紀代と考えられるミャンマーとラオス、そしてベトナムのフエの3地点だけである。

こうした東南アジア内陸部で生産された陶器製キセルと比較するならば、ベトナム・フエのミースエン窯跡出土のものとホイアン出土のものは、形態的に、また紋様をもたない点であきらかに異なっている。そして、ホイアンの陶器製キセルは、17世紀から19世紀の国際貿易都市としてのホイアンで出土したことのもつ意味が大きい。

ホイアン出土の17世紀の無釉の陶製キセルは、東南アジアの他の製品、あるいはヨーロッパのクレイパイプと明らかに異なっている。そして、キセルの出土したホイアンの地点が、筆者の研究では17世紀の日本町跡の有力候補地であること、このことを考えれば日本とのかかわりのなかで生まれた可能性も否定できない。つまり、当時の日本で流行っていた金属製キセルを模倣して作られたと考えられる。金属製キセルを入手できなかった現地のひとがその形態を模倣し、陶器で製作を依頼したのであろう。しかし、それは限られた範囲内にしか使用されず、また年代も限定されたことにより、その後のベトナムの喫煙具の歴史のなかで忘れ去られていったのであろう。それは、日本町の消滅とかかわり、無釉の陶器製キセルは、17世紀のホイアン日本町の位置を特定できる可能性をもつ遺物としての側面をあわせもつと考えられよう。